



対がん協会報

1部70円(税抜き)

第664号

2018年(平成30年)
7月1日(毎月1日発行)

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階
☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <http://www.jcancer.jp/>

主な内容	2面	世界禁煙デーイベント
	3面	全国対がん協会グループ支部事務局長会議
	6面	ジャパン キャンサー サバイバーズ デイ2018

がんによる死亡は37万3178人 前年より192人増 1位肺がん、2位大腸がん、3位胃がん 目立つ膵臓がんの増加

厚生労働省2017年人口動態統計(概数)

厚生労働省は6月1日付で、2017年の人口動態統計(概数)を公表した。それによると昨年1年間にがんで亡くなった人は37万3178人で前年より192人増えたことがわかった(2017年は概数、2016年は確定数)。

全体の死亡数は134万433人で前年の130万7748人より3万2685人増加して戦後最多を更新した。一方、出生数は94万6060人となり、前年より3万918人減少した。

がんは1981年以降一貫して死因の

第1位となっており、2017年の全死亡者に占める割合は27.8%で全死亡者のおよそ3.6人に1人ががんで亡くなっている。

男女合わせての部位別の死亡数を見ると、1位が肺がんの7万4095人、2位が大腸がんの5万646人、3位が胃がんの4万5210人、以下、膵臓がん3万4196人、肝臓がん2万7103人と続く。この順位は昨年と変わらなかった。1番増加が目立つのは膵臓がんで前年より721人増えた。近年増加が目

立っている大腸がんも547人増加、同じく乳がんも270人増加した。

さらに、男女別に部位別のがんの死亡数と死亡率(人口10万対)を見ると、男性は肺がんがもっとも高く死亡数は5万2985人で死亡率が87.3となっており、女性では大腸がんと肺がんが高く、大腸は2003年以降第1位となっている。2016年の死亡数は大腸が2万3337人、死亡率は36.5、肺が2万1110人、死亡率33.0だった。

主な部位別にみたがんによる死亡数

	部位	1965年	1975年	1985年	1995年	2005年	2014年	2015年	2016年	2017年	
死亡数(人)	男	胃	28,636	30,403	30,146	32,015	32,643	31,483	30,809	29,854	29,737
		肝	5,006	6,677	13,780	22,773	23,203	19,208	19,008	18,510	17,810
		肺	5,404	10,711	20,837	33,389	45,189	52,505	53,208	52,430	52,985
		大腸	3,265	5,799	10,112	17,312	22,146	26,177	26,818	27,026	27,309
死亡数(人)	女	胃	17,749	19,454	18,756	18,061	17,668	16,420	15,870	15,677	15,473
		肝	3,499	3,696	5,192	8,934	11,065	10,335	9,881	10,018	9,293
		肺	2,321	4,048	7,753	12,356	16,874	20,891	21,170	21,408	21,110
		乳房	1,966	3,262	4,922	7,763	10,721	13,240	13,584	14,015	14,285
		子宮	6,689	6,075	4,912	4,865	5,381	6,429	6,429	6,345	6,605
		大腸	3,335	5,654	8,926	13,962	18,684	22,308	22,881	23,073	23,337

厚生労働省の人口動態統計より作成 2017年度は概数、他は確定数

がん相談ホットライン 祝日・年末年始を除く毎日
03-3541-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3541-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

医師による面接・電話相談(要予約)
社労士による就労相談(要予約)
予約専用 03-3541-7835

日本対がん協会は医師による面接・電話相談と社労士による就労の電話相談(ともに無料、電話代は別)を受け付けています。予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までです。医師による相談は電話が1人20分、面接は30分、社労士による電話相談は40分になります。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

世界禁煙デー記念イベント 国際的な立場での受動喫煙防止策を



日本対がん協会の禁煙活動について語る望月参事

5月31日の世界禁煙デーに合わせて、記念イベント(主催:日本医師会、健康日本21推進全国連絡協議会、たばこと健康問題NGO協議会、日本禁煙学会)が東京・文京区の日本医師会館で開催された。「受動喫煙防止はどのように進展させるのか」をテーマにしたプログラムで、小池百合子東京都知事も登壇した。

小池都知事は「受動喫煙に関しては、有効性のある策として"人"に着目した条例の制定をしたい。厚生労働省が進めている国としての対策に合わせる部分と、オリンピック・パラリンピック

のホストシティである東京都としてプラスアルファを上乘せしたものを考えたい」と述べた。

また、日本対がん協会の望月友美子参事は、「『タバコゼロ』へ『ミッション』」と題した講演を行い、国際的に見た日本が、禁煙対策において現状どの位置にいてどこを目指すのかということを手掛かりに例えて説明した。また、講演の冒頭には、垣添忠生日本対がん協会会長のビデオメッセージを流し、「タバコが世の中からなくなると、がんになる人を3分の1くらい減らせるほど大きなインパクトがある」という



講演する小池都知事

メッセージと共に、いかなるタバコとも決別する(=タバコゼロ)社会を実現することをミッションとする協会の活動も紹介した。

厚生省健康局健康課の正林督章課長も「健康増進法改正案を可決成立させるだけでなく、しっかりと施行まで成し遂げなければならない。日本を恥づかしくない国にしたい」と強調し、昨年より更に、2年後に差し迫ったオリンピック・パラリンピックを意識した、早急な対策を望む声が多く聞かれた。

2018年度禁煙啓発ポスター

「進行してます、体内汚染。」に決定



2018年度禁煙啓発ポスター

日本対がん協会は、毎年、禁煙啓発ポスターを作成しており、支部を通じて全国に掲示し、禁煙を訴えている。2018年度は、200種以上の有害物質を含むタバコを吸うことで、その毒性が全身を蝕んでいき、それが周囲の人にも及んでいくことを表現した「進行してます、体内汚染。」に決定した。

タバコには、三大有害物質であるニコチン、タール、一酸化炭素など200種以上の有害物質があることが認定されており、その中には70種類以上の発がん性物質が含まれている。

体内に取り込むことで、全身に回り、細胞レベルや遺伝子レベルで悪影響

をもたらし、がんだけでなく、心筋梗塞や脳卒中、様々な疾患の原因になる。中でもがんの原因の3割を占め、禁煙は最大のがん予防策である。

さらにタバコは、受動喫煙によって自分だけでなく、周りの人の健康にも大きな影響を与える。今回のデザインでは、そうしたタバコによる「体内汚染」が自分だけでなく、受動喫煙によって広がっていくことを可視化することで強調。「禁煙はあなたができる最大のがん予防策です。」とのサブコピーで、禁煙に踏み出すことをうながしている。

日本対がん協会グループ全国事務局長会議 厚労省佐々木課長 がん検診対象者見直しの動きなど解説



講演する厚労省の佐々木課長

日本対がん協会グループの2018年度全国事務局長会議が6月25日、東京都中央区の国立がん研究センターで開催された。垣添忠生会長のあいさつに続き、厚生労働省がん・疾病対策課の佐々木昌弘課長が「日本のがん対策 がん検診のあり方について」と題して講演を行った。佐々木課長は2006年にがん対策推進基本計画が作られたときはがん医療の均てん化が最大のテーマだったが、それから12年経ち、3月に閣議決定された第3期の基本計

画では、科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実が、計画の3本柱の最初に掲げられたことを説明。そのうえで、5月に開かれた「がん検診のあり方検討会」で、国が推奨している5つのがん検診の見直しに入ると公表したことを強調した。

具体的には、がん検診の利益・不利益を考慮した上で、がん検診の対象年齢等を見直すとして、年齢の上限を設けたり、重点的に実施する年齢等を検討したりするなど、「対象者の年齢にメリハリをつける」との考えを示した。さらに年齢以外にもメリハリを付ける可能性も含め、がん検診の対象者を明確にすることを「がん検診のあり方検討会」で来年取りまとめてもらい、国のがん検診の指針の見直しに入ることを解説した。

一方、乳がん検診のマンモグラフィ検査で、異常を見つけにくい「高濃度乳房」であるかを受診者に伝えるかどうかの問題について、厚労省としては「一律に知らせるべきではない」との見解を示した。そのうえで、高濃度乳房について通知している自治体もあるこ

とから、高濃度乳房とは何か、なぜ一律には伝えないのかなどの質問に解説付きで答えるQ&A集も公表していることも解説した。

佐々木課長の講演後は、群馬県支部の戸塚俊輔・群馬県健康づくり財団専務理事が、リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)ぐんまの開催に支部として取り組んだ経緯について講演した。RFLJ未開催だった群馬県で開催を望む声が大きかった2012年に、RFLJの実行委員会の事務局を支部が担うことを決めて、翌年の開催にこぎつけ、以後毎年実施してきたことを紹介した。

RFLJの主人公はがんサバイバーで、支部は裏方の役目であり、互いに敬意と感謝の気持ちを持って対応することでよいRFLJが開催でき、支部のイメージアップにもつながったことを強調。支部が事務局を担ってRFLJを開催する場合の意義を訴えた。

その後は垣添会長の全国がんサバイバー支援ウオークの中間報告が行われ、さらに日本対がん協会の中期計画、がん検診の研究事業の内容、がん予防・禁煙など今年度の事業内容などが、担当者から報告・説明され、閉会した。

その後は垣添会長の全国がんサバイバー支援ウオークの中間報告が行われ、さらに日本対がん協会の中期計画、がん検診の研究事業の内容、がん予防・禁煙など今年度の事業内容などが、担当者から報告・説明され、閉会した。

日本対がん協会役員改選 新理事・監事・評議員決まる

公益財団法人日本対がん協会は東京都内で6月1日に理事会、同18日に評議員会を開催し、任期満了に伴う役員改選を行った。評議員会とその後の理事会を経て決まった新任・再任の理事・監事・評議員は次の通り。

- ◇代表理事・会長 垣添忠生(元国立がんセンター総長)
- ◇代表理事・理事長 後藤尚雄(朝日新聞社顧問)
- ◇常務理事 坂野康郎(日本対がん協会常務理事)、中釜斉(国立がん研究センター理事長)、山口俊晴(がん研究会有明病院名誉院長)
- ◇理事 今村聡(日本医師会副会長)、岡田恭子(新任 資生堂常勤監査役)、小林研一(生命保険協会副会長)、関原健夫(CDIメディカル顧問)、渡辺雅隆(朝日新聞社社長)
- ◇監事 小西勝英(朝日新聞社取締役)、杉浦文彦(公認会計士)
- ◇評議員 アグネス・チャン(歌手・タレント)、梅田正行(新任 朝日新聞社常務取締役)、川本利恵子(新任 日本看護協会常任理事)、岸本葉子(エッセイスト)、斎藤博(青森県立中央病院消化器内科医療顧問)、坂下千瑞子(東京医科歯科大学特任助教)、佐々木常雄(都立駒込病院名誉院長)、中川恵一(東京大学医学部附属病院准教授)、野田哲生(がん研究会がん研究所所長)、久道茂(宮城県対がん協会会長)、松浦成昭(新任 大阪国際がんセンター総長、大阪対がん協会会長)、森昌平(新任 日本薬剤師会副会長)、山口建(静岡県立静岡がんセンター総長)、山根則幸(予防医学事業中央会専務理事)。

改選に伴い退任した役員は以下の通り。

- ◇理事 高山靖子(元資生堂監査役)
- ◇評議員 江口研二(帝京大学医学部特任教授)、高田覚(朝日新聞社取締役)、堀正二(大阪国際がんセンター名誉総長)

ピンクリボン啓発活動をスタジアムで実施 「イーグルスガールデー2018」にブースを出展

6月23日、株式会社楽天野球団による「イーグルスガールデー2018」が楽天生命パーク宮城(宮城県仙台市)で開催され、楽天イーグルスを応援する女性たちを対象に、球場内外で様々なイベントや特典が用意された。日本対がん協会は、楽天の嶋基宏選手から数年に渡ってピンクリボン活動へ寄付をいただいていることもあり、ブースを出展し、ピンクリボンの啓発活動を行った。ガールデーのテーマカラーがピンクであり、当日配布されたピンク色のイーグルスガールユニフォームを身に着けた女性たちにより会場はピンク色



人気のピンクリボンクイズは順番待ちも

に染まり、好天にも恵まれたおかげで、多くの来場者が試合開始前にブースエリアに足を運んだ。

対がん協会ブースでは、募金受付だけでなく、仙台市が実施している市民健診の案内や、乳房触診モデルの展示、乳がんの基礎知識を学ぶ「ピンクリボンクイズ」やフェイスペインティング(協力：日本エステティック協会)を実施。また、ピンクリボンのオフィシャルメッセンジャーの『モモ妹』も登場し、ブースを盛り上げた。

「ピンクリボンクイズ」は、問題に対

し、答えを3択の中から選んでもらう形式で、女性だけでなく夫婦や子供連れがクイズに挑戦した。問題の中で『生涯に乳がんを患う日本人女性が11人に1人』ということへの正解は少なく、あまり知られていなかったが、『早期発見・早期治療による生存率が90%』であるということには正解率が高かった。

「自分も乳がん経験者だ

から」嶋選手が寄付しているなら」ということで募金をしてくださった方もおり、募金していただいた方々には「ピンクリボンラップ」(クレハ提供)と「バストビューティージェル」(シャルレ提供)のほか、入浴剤やトイレトペーパーをプレゼントした。

ピンクリボン月間(10月)以外の時期に、スタジアムという場所で、普段はピンクリボン活動に関心を寄せたり、接したりすることのあまりない方々に対して啓発活動をアピールすることができ、有意義な機会となった。



「モモ妹」がブースのお手伝いに来場

ピンクリボン月間は全国のお風呂をピンクに 入浴剤メーカーが入浴施設に呼びかけ 乳がんセルフチェックの掲示も

10月のピンクリボン月間は全国のお風呂をピンクにして、乳がん早期発見の啓発を——名古屋市の入浴剤メーカーの株式会社ヘルスビューティー(松田尚子社長)は、銭湯など入浴剤利用施設にこんな呼びかけをする「日本列島しあわせピンクバスプロジェクト」を始めた。ピンクの入浴剤と、乳がんのセルフチェックの仕方がわかる浴室内の乳がん早期発見の啓発掲示物などをセットにして販売し、全国の入浴施設などでピンクリボン運動を発信していく試みだ。

今回のプロジェクトを松田社長が思いついたきっかけの一つは、前社長だった夫が3年前に腎臓がんで亡くなっ

たことだった。夫のがんが見つかったときにはすでに手遅れの状態だった。「もっと早くみつかっていれば」「もっと知識があれば」との思いがずっと残っていた。

そうした中、元フリーキャスターの小林麻央さんが昨年乳がんで亡くなったことで、同社が2011年に開発しながら販売を休止していた乳がんのセルフチェックをするときに役立つソープの再販を求める声を聞いた。そこから、乳がんの早期発見を啓発するピンクリボン活動につなげることができないかと考え、プロジェクトを立ち上げた。

プロジェクトへの参加などの問い合わせは、ヘルスビューティー社内の



プロジェクトを立ち上げた松田社長

「しあわせピンクバスプロジェクト事務局」(電話052-618-7558)まで。

海外奨学制度 「RFLマイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞」公募開始

米テキサス大MDアンダーソンがんセンター・シカゴ大学医学部で1年間研修

公益財団法人日本対がん協会は米国テキサス大学MDアンダーソンがんセンター(以下MDアンダーソン)もしくはシカゴ大学医学部(以下シカゴ大)において、1年間研修を受ける若手医師の公募を始めました。

このプログラムは、「リレー・フォー・ライフ(RFL)マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞」と名付けた奨学制度で、日本の臨床試験推進および地域がん医療の拡充に貢献できる若手医師の育成が目的です。MDアンダーソンと同大の上野直人教授の協力とアドバイスのもとに、一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクトの支援を受けて、2010年度にスタートしました。

MDアンダーソンは開設以来76年余

の歴史を有し、全米No.1と評されているがん専門医療施設です。シカゴ大学医学部は、90年の歴史の中で、ノーベル医学・生理学賞を12人輩出した全米屈指の大学です。いずれの施設も、基礎と臨床が融合した臨床研究を推進し、世界のがん医療を牽引しております。

本年度の募集人数は、MDアンダーソンに2人、シカゴ大は1人です。奨励金として1人250万円を支給します(渡航費を含む)。締め切りは2018年10月31日(消印有効)です。

運営の資金は、がん征圧・患者支援の「リレー・フォー・ライフ」に寄せられる寄付です。がん患者・家族の方々の支援には、がん医療を充実させること

が重要です。広い視野をもち、強いリーダーシップのもと患者・家族に寄り添える医師の養成が欠かせません。臨床試験の推進や、患者を中心とした医療システムのあり方など、米国で学んだことを日本の各地の実情に応じて工夫し、患者中心の、真に科学的根拠に基づく医療を根付かせてほしい、そんな願いをこめています。

希望者は日本対がん協会またはリレー・フォー・ライフの公式ホームページから申請書をダウンロードし、必要事項を記入して、郵送してください。お問い合わせは日本対がん協会(TEL: 03-3541-4771、岡本)まで。

AC支援広告 キャンペーン

がんは「万が一じゃなく二分の一」がスタート がんを身近に感じてもらい、検診受診率向上へ

日本対がん協会は、公益社団法人ACジャパンの2018年度の支援団体に選ばれ、「がん検診の受診」をテーマにした広告キャンペーンを開始した。キャンペーン期間の2018年7月1日から1年間にわたって、新聞、雑誌、テレビ、ラジオの各メディアが提供する広

告枠と交通広告などで広告キャンペーンを展開する。

AC支援キャンペーンとは、ACジャパンが広告の力で社会の抱えるさまざまな問題に目を向けるきっかけを与え、より良い社会の実現を目指すことを目的に福祉活動などを行っている団体を支援するもの。日本対がん協会は2007年から2012年の6年間にわたって支援団体に選ばれ、がん検診の受



テレビCMのワンシーン

診を呼びかけた。5年ぶりに選ばれた2017年には、がん患者の就労をテーマにし、働くがん患者を「ながらワーカー」と呼び、がんになっても普通に働ける社会の実現を訴えたが、今回は再度、がん検診の受診を呼びかける内容となった。

今回の作品は、日本人の生涯に2人に1人ががんになると推計されており、だれもがなりえる病気だが、早期

発見で治る時代になってきたことをシンプルに伝える構成としている。

夫婦が「万が一、がんになったら」と会話する中で、「万が一じゃなく、二分の一」と返すことで、生涯に2人に1人ががんになる割合であり、がんが身近な病気であることを強く印象付けることを

狙った。2人に1人ががんになる時代であることをまだまだ知らない人がいる中、ひとごとではないことを気付かせることで、がん検診の受診をうながす内容となっている。

テレビCM用では夫婦のテニスのやりとりの中での会話として、ラジオCM用では家の中での夫婦の会話として表現された。

がんサバイバー・クラブ支援に米国在住の三輪さん 9000万円を寄付

米国ペンシルベニア州在住の三輪啓子さんが設立した「Dr. Keiko Miwa Fund」から4月、日本対がん協会のがんサバイバー・クラブの活動支援を目的に、9000万円のご寄付をいただきました。有効に使わせていただきます。

ジャパン キャンサー サバイバーズ デイ2018

患者・家族の支援活動情報の展示会

相談窓口のパネルディスカッションも

日本対がん協会のがんサバイバー・クラブは6月3日、一度でもがんと診断されたことのある「がんサバイバー」やその家族のために、支援活動情報を提供する展示会「ジャパン キャンサー サバイバーズ デイ2018」を東京都中央区の国立がん研究センターで開いた。患者・家族への支援活動を行っている19の団体や企業がブースを出展し、患者・家族ら438人が参加した。

展示会は、患者や家族の生活に寄り添う支援活動をしている団体や企業が集まって情報を提供し合い、結びつく機会を提供することで、より良い活動に発展し、患者・家族にもより良い情報が届くことを願い、企画された。

正しいがん情報の探し方の講演

各団体が会場内に出展したブースで、それぞれの活動を紹介する中、隣のセミナー会場では、まず若尾文彦・国立がん研究センター・がん対策情報センター長が「正しいがん情報の探し方」をテーマに基調講演をした。

若尾センター長は、がんの情報をインターネットで検索する人が多いが、その場合、怪しい医療情報の広告の内容に誘導されてしまう落とし穴があることを指摘。「がん治療」と検索すると誤った内容を含む広告記事が上に出てしまい、正しい情報にたどりつきにくいことから、国立がん研究センターでは1月からは、yahooのサイトで「が

ん」と検索したときには広告情報より上に国立がん研究センターのがん情報サービスの情報が出るように契約したことを紹介した。

また、「標準治療」という言葉は並みの治療

と誤解されているが、その時点での最善、最良の治療であり、一方で「最新治療」という言葉は、実験的・研究的な治療であり、完全に安全で、有効なものではまだないことを解説。標準治療を選ぶことを勧めた。さらに誤った情報があふれる中、その情報を「うのみ」にせず、懐疑的にみて、吟味するくせをつけてほしい」とアドバイスした。

そのうえで、サイトで情報を得るときのチェックポイントとして、何を情報源にしているか明記されているか、成功例の紹介など、よいことばかり書かれていないかなどを挙げた。

相談窓口の使い方を紹介

その後は、出展した団体の代表らが活動内容を紹介するセミナーが開かれた。さらに「がん告知前・治療・生活、各ステージでの相談窓口の役割を知り利用しよう」と題したパネルディスカ

ッションも開かれた。

日本対がん協会のがん相談ホットラインを担当している北見知美・相談支援室マネジャー、がん情報サイト「オンコロ」治験問い合わせ窓口責任者の濱崎晋輔氏、がんサバイバー・クラブなどで就労相談を担当している社



相談窓口の使い方を議論したパネルディスカッション

会保険労務士の近藤明美氏の3人がパネリストとなり、それぞれの窓口の使い方を紹介。北見マネジャーは、突然がんといわれて頭が真っ白になった人に対して、「不安な気持ちをはきだしてもらい、一緒に寄り添っていける存在が必要」として、気持ちの整理のためにも使ってもらいたい、と訴えた。

また、濱崎氏は、相談窓口では、治療の選択肢の一つとして治験の情報を知ってもらうため、まずは治験が何かを理解してもらっていることを説明した。そのうえで、相談者が参加できる治験があるのかを調べ、情報を提供しているが、参加するには必ず主治医に相談してほしい、と訴えた。しかし、主治医も治験のことをすべて知っている訳でもないため、困ったときにオンコロの相談の利用を勧めた。

一方、近藤氏は、病気になった時に使える制度や職場の理解、再就職についての相談が多いが、制度は、申請しないと使えないことを強調。知らなかった選択肢があることを少しでも相談の中で示して、相談者の不安を軽くし、安心してもらえるサポートを目指していることを紹介した。会社に病気のことを話すための準備として、「自分の場合、どうなるのかななどの情報の確認として相談してもらえれば」と語った。



各団体の情報交流も進んだ出展ブース

2016年度グループ支部 がん検診の実施状況から ◆乳がん

■全体

支部名	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果					精検不要の人数 (E)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 的中度 (D/B)
				がん(D)	がん疑い	がん以外の疾患	異常なし	その他			
北海道	71,864	2,285	2,247	248	3	608	0	1,397	69,579	0.35%	10.85%
青森	26,040	1,411	1,311	69	1	697	543	1	24,629	0.26%	4.89%
岩手	37,597	722	692	117	0	453	122	0	36,875	0.31%	16.20%
宮城	54,612	1,568	1,522	149	0	842	531	0	53,044	0.27%	9.50%
秋田	16,784	1,131	935	34	5	410	269	217	15,653	0.20%	3.01%
山形	37,202	2,115	1,951	75	14	847	1,015	0	35,087	0.20%	3.55%
福島	22,506	437	381	45	6	157	165	26	22,069	0.20%	10.30%
茨城	58,493	2,023	1,867	107	34	1,129	512	85	56,470	0.18%	5.29%
栃木	50,308	2,281	2,029	97	56	1,217	646	0	48,027	0.19%	4.25%
群馬	26,366	1,069	1,038	65	4	541	428	0	25,297	0.25%	6.08%
埼玉	38,934	2,669	2,283	95	41	1,067	995	85	36,265	0.24%	3.56%
千葉	171,004	6,548	6,030	317	6	3,511	2,196	0	164,456	0.19%	4.84%
新潟	71,691	4,087	3,830	199	24	1,748	1,771	196	67,604	0.28%	4.87%
山梨	12,078	399	365	31	1	171	158	4	11,679	0.26%	7.77%
長野	42,111	2,266	2,075	82	0	864	876	253	39,845	0.19%	3.62%
富山	34,391	1,921	1,794	77	0	699	985	33	32,470	0.22%	4.01%
石川	22,280	1,410	1,336	53	4	362	653	264	20,870	0.24%	3.76%
福井	22,853	1,347	1,219	74	0	660	469	0	21,506	0.32%	5.49%
愛知	6,860	513	439	14	0	155	270	0	6,347	0.20%	2.73%
三重	32,027	1,302	1,206	56	11	645	492	2	30,725	0.17%	4.30%
滋賀	7,203	577	550	16	6	253	275	0	6,826	0.22%	2.77%
京都	39,657	2,340	1,582	62	28	837	630	25	37,317	0.16%	2.65%
兵庫	19,572	1,046	847	41	1	475	322	0	18,526	0.21%	3.92%
奈良	1,969	64	59	5	0	27	24	4	1,905	0.25%	7.81%
和歌山	9,591	584	539	24	0	231	284	0	9,007	0.25%	4.11%
鳥取	11,429	859	749	38	1	165	353	192	10,570	0.33%	4.42%
島根	8,853	404	382	25	0	178	142	36	8,449	0.28%	6.19%
岡山	22,314	889	615	32	3	38	267	275	21,425	0.14%	3.60%
広島	17,150	1,008	929	51	2	383	481	11	16,142	0.30%	5.06%
山口	8,123	1,036	621	18	0	316	287	0	7,087	0.22%	1.74%
徳島	8,590	360	323	37	2	204	80	0	8,230	0.43%	10.28%
香川	12,251	553	542	43	0	234	265	0	11,698	0.35%	7.78%
愛媛	29,053	446	420	58	9	249	104	0	28,607	0.20%	13.00%
高知	22,557	733	689	49	0	317	323	0	21,824	0.22%	6.68%
福岡	56,460	3,855	3,461	172	6	1,805	1,238	240	52,605	0.30%	4.46%
佐賀	16,238	847	794	42	13	145	272	0	15,391	0.26%	4.96%
長崎	18,435	1,125	1,077	55	5	565	452	0	17,310	0.30%	4.89%
熊本	31,364	1,250	1,071	71	1	648	351	0	30,114	0.23%	5.68%
大分	17,147	1,140	1,090	53	6	451	580	0	16,007	0.31%	4.65%
宮崎	6,254	329	277	24	0	146	100	7	5,925	0.38%	7.29%
鹿児島	49,137	2,441	2,361	102	59	1,216	984	0	46,696	0.21%	4.18%
沖縄	13,408	628	525	31	2	292	116	84	12,780	0.23%	4.94%
合計	1,282,756	60,018	54,053	3,053	354	25,958	21,026	3,437	1,222,738	0.24%	5.09%

2016年度グループ支部 がん検診の実施状況から ◆大腸がん

■男女合計

支部名	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果						精検の結果 その他の結果	精検不要の人数 (E)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 の集中度 (D/B)
				粘膜内がん (M) (D1)	がん(M以外) (D2)	がん (D1+D2+ 詳細不明分)	がん疑い	がん以外の 疾患	異常なし				
北海道	129,956	9,814	8,157	189	205	394	5	5,522	2,236	0	120,142	0.30%	4.01%
青森	103,386	5,704	4,490	58	94	152	20	3,154	967	197	97,682	0.15%	2.66%
岩手	116,498	6,262	5,078	102	133	235	0	3,330	1,508	5	110,236	0.20%	3.75%
宮城	63,772	3,383	2,993	75	121	196	0	1,952	844	1	60,389	0.31%	5.79%
秋田	66,942	4,419	3,429	0	0	119	14	2,166	1,114	16	62,523	0.18%	2.69%
山形	129,097	7,305	5,550	0	0	172	28	3,271	2,079	0	121,792	0.13%	2.35%
福島	124,880	8,587	6,155	35	108	143	1	3,819	2,003	189	116,293	0.11%	1.67%
茨城	170,172	11,571	8,320	120	133	253	72	6,162	1,675	158	158,601	0.15%	2.19%
栃木	75,611	4,065	3,125	0	0	123	32	2,134	780	0	71,546	0.16%	3.03%
群馬	34,028	1,490	959	21	32	53	2	666	231	0	32,538	0.16%	3.56%
埼玉	25,111	1,437	947	27	17	44	2	623	257	20	23,674	0.18%	3.06%
千葉	117,540	7,561	4,276	36	90	126	3	3,077	1,070	0	109,979	0.11%	1.67%
新潟	132,266	7,813	6,342	0	0	314	25	3,671	2,089	512	124,453	0.24%	4.02%
山梨	16,918	803	509	0	0	22	2	337	136	12	16,115	0.13%	2.74%
長野	105,180	6,274	4,386	84	100	184	0	2,583	1,341	278	98,906	0.17%	2.93%
富山	34,990	2,066	1,362	0	0	57	0	937	367	1	32,924	0.16%	2.76%
石川	26,125	1,649	1,253	17	22	39	0	948	257	6	24,476	0.15%	2.37%
福井	57,309	2,893	2,050	21	68	89	6	1,492	463	0	54,416	0.16%	3.08%
愛知	12,267	810	403	0	0	10	0	234	140	19	11,457	0.08%	1.23%
三重	25,170	1,290	839	7	28	35	5	470	255	74	23,880	0.14%	2.71%
滋賀	15,852	997	836	0	0	28	2	616	190	0	14,855	0.18%	2.81%
京都	89,497	5,948	1,059	0	0	41	1	810	207	0	83,549	0.05%	0.69%
兵庫	95,067	4,766	2,206	0	0	80	0	1,525	536	0	90,301	0.08%	1.68%
奈良	1,601	115	94	0	0	2	1	63	28	0	1,486	0.12%	1.74%
和歌山	25,139	1,639	621	0	0	0	23	414	146	10	23,500	0.00%	0.00%
鳥取	42,578	2,684	1,799	33	20	53	5	1,128	613	0	39,894	0.12%	1.97%
島根	44,451	2,576	1,621	31	33	64	2	937	584	0	41,875	0.14%	2.48%
岡山	36,238	2,471	1,485	1	0	35	4	1,087	305	52	33,767	0.10%	1.42%
広島	33,028	2,205	1,553	32	41	73	0	1,048	369	0	30,823	0.22%	3.31%
山口	48,749	2,447	878	0	0	10	0	609	259	0	46,302	0.02%	0.41%
徳島	24,633	2,307	1,501	0	13	13	5	1,011	454	2	22,326	0.05%	0.56%
香川	20,880	1,129	987	0	0	33	0	712	242	0	19,751	0.16%	2.92%
愛媛	71,250	3,963	3,066	0	0	76	9	1,985	942	54	67,287	0.11%	1.92%
高知	69,115	3,088	2,140	60	27	87	8	1,456	589	0	66,027	0.13%	2.82%
福岡	76,526	4,337	2,813	48	69	117	6	1,979	697	14	72,189	0.15%	2.70%
佐賀	26,256	1,889	1,501	0	0	53	10	1,101	337	0	24,367	0.20%	2.81%
長崎	39,095	2,657	1,943	32	46	78	3	1,393	469	0	36,438	0.20%	2.94%
熊本	51,179	3,244	2,211	14	37	51	2	1,607	548	0	47,935	0.10%	1.57%
大分	23,777	1,573	1,298	12	36	48	2	920	328	0	22,204	0.20%	3.05%
宮崎	28,247	1,854	1,360	31	6	37	3	874	408	0	26,393	0.13%	2.00%
鹿児島	62,000	3,786	3,005	41	62	103	7	2,292	600	3	58,214	0.17%	2.72%
沖縄	43,438	2,449	1,337	6	14	20	11	840	338	97	40,989	0.05%	0.82%
合計	2,535,814	153,320	105,937	1,133	1,555	3,862	321	70,955	29,001	1,720	2,382,494	0.15%	2.52%

古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

charibon by VALLE BOOKS

詳しくは「チャリボン」

<http://www.charibon.jp/partner/JCS/>

お問合せ(株式会社バリューブックス)：0120-826-295

受付時間：10:00-21:00(月~土) 10:00-17:00(日)